

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	梨の木からの理念とほほ笑みの理念を常に理解し共有し、悩んだ時など理念を振り返り実践しています(やさしいまなざし・手のぬくもり・心の安らぎ・地域、家族との支え合い)	法人の理念「最後まで寝たきりにならない」を継続し、ホームの理念と共に廊下に掲示されている。日々の申し送りでも常に振り返りながらケアに取り組んでいる。月1回のケア会議で各研修を行い理念を確認している。家族には契約時に理念の説明をし理解をいただいている。理念にそぐわない行動や言動が職員に見られた時には申し送りの情報共有シートで伝達をし、初心に戻るようになっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	本年度は、コロナウイルス感染症拡大により、地域との交流は出来てはいませんが、コロナウイルスが落ち着いたら、地域の方々との交流を深められるよう努力したい	法人として自治会費を納め地域の一員となっており、回覧や市広報で情報を収集している。節分には町の商工会のメンバーによる七福神の来訪があった。地区の健康体操ボランティアの来訪も2月まで行われていたが3月よりの新型コロナ禍の影響により中止となっている。また、実習生の受け入れ、ホーム祭りも中止された。新型コロナ収束後にはまた交流の再開が待たれるというところである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームとしての実績はないが、地域の方や、以前入居されていたご家族からの相談には誠意をもって対応しています。地域交流室で行われる健康体操教室に大勢の方が参加されています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度はコロナウイルス感染症拡大のため会議は行えていませんが、今の現状を文章にして報告しご意見を頂いています。その意見をサービス向上に活かしています。	家族代表、自治会長、民生児童委員、公民館長、交番所長、地域包括支援センター職員、市高齢者介護課職員、ホーム職員が出席し、1階の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で奇数月に開き、活動報告、事故報告、利用者の生活の様子などを話し、意見を頂いている。新型コロナの影響により実際にホームで開かれたのは今年1月のみとなっている。3月からはホームの様子を書面にし、返信(ご意見、ご要望、ご質問)用紙と返信用封筒を状況を説明しながら直接配布している。返信された用紙には、実際に会議が開かれているかのように積極的な意見が書き込まれており、ホームのケアに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホーム大屋としての連携は常にとっています。困ったとき・悩むときなどは相談し、助言・意見を頂きすぐにも実行に移すよう努めています。	新型コロナウイルス状況によりホームとしての対応などをその都度相談している。介護認定調査はホームで行われ、計画作成担当者が立会い調査員に情報提供しており、家族が立ち会うこともある。介護相談員が3~4ヶ月に1回来訪していたが今年は1回のみで中止となっている。10月に市主催で開かれた新型コロナウイルスについての研修に参加し、職員にも周知し実践している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会の方から3か月に1回の研修を行い、いかなる場面でも拘束はしないケアに努めています。が2階の為出入り口の施錠はしています	月1回ケアについて議題にし、本部で開かれる所長会議も1月で中止となっているが、身体拘束委員会が中心となり3ヶ月に1回研修を開き、拘束のないケアに取り組んでいる。転倒が多くなっており、家族からサイドレールの利用やセンサーの希望があり、同意を頂きセンサーのみ利用している方がいるが、毎日の申し送り時に見直しをしている。	

ほほ笑みホーム大屋

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会の方から3か月に1回の研修を行い、虐待防止・スピーチロックについての研修も行っています。チェックリストを持ちて各自再確認シケアにつなげています		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている入居者様はいませんが、職員は各自学び理解できるよう努めています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明し理解はしていただいています。入居期間が長い方には再度説明させていただくよう心掛けています、		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望箱を入りに設置してありますが、意見が出されたことはありませんでした。言いづらな様子が見える時は施設の方からお聞きする様に心掛けています	自分から意見や要望を伝えることが出来る方は少ないが出来る限り選ぶことが出来る場面作り心掛けています。家族の面会は月に2~3回の方が多く、新型コロナウイルスの影響により中止となったり玄関での面会となっていたが、11月からは地域交流室で面会していただいている。遠方の家族には電話で様子を伝え、意見や要望を聞いている。夏祭り、誕生会、ボランティアの来訪時に家族の参加もいただいていたが、今年度は全て中止となり参加がいただけない状況が続いている。毎月請求書と一緒に管理者から全体のお便りと利用者一人ひとりのお便りを送り、利用者の様子を伝えている。運営推進会議に参加した家族から、職員の顔、名前、勤務者が分からないなどの意見を頂いたことがあり、直ぐに改善をしたという。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から出た意見・要望は施設長に報告し施設長から会社に伝えて頂ける様努めています	職員には少なくとも一人の利用者を担当してもらい、全てのことを把握し責任を持って業務に当るようにしてもらっている。人事考課制度、目標管理制度はまだ出来ていないが、管理者は何時でも職員の話に耳を傾け相談にのり、働きやすい雰囲気づくりに取り組んでいる。必要に応じて複合施設全体の施設長に報告し対処することもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	接遇・身だしなみ・職場環境チェックシートを用いて各自意識を高めるよう研修会をおこなっています。個人的にも面談を行い、より働きやすい環境を整える様努めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所研修は勿論ですが、外部で行われる研修にも機会を作り参加できる様働きかけています。悩み・生きずまりで立ち止まる職員には面談・話しを聞ける時間を作る様努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本年度は、リモートで研修会を行い、事例を基に対応方法などを話し合い、また意見を出し合い、よりよい支援が行えるよう取組みをしています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	基本情報をもとに話題の持って行き方に考慮し、関りの時間を多くとり、些細な言葉も聞き逃さない。発した言葉を繰り返し共有し少しでも早く信頼関係が作れるよう努力しています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	基本情報をもとに家庭での生活の様子をお聞きし、どんなことで悩み苦しんで来られたのかをしっかりと聞きし、施設での生活に不安なこと・要望や希望することをお聞きし家族とよりよい関係が作れるよう努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人はじめご家族の希望することをお話し合いながら、今必要とされるサービスを提供できる様心掛けています。例えば、足・腰痛の方にはマッサージを、専門医に受診されていない方には希望に応じて対応する様努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が、何を考え、何を求めているのか、何を嫌がるのかを常に考え介護にあたっています。日々の話題・ニュースなどを話し、笑ったり感心したりと一緒に生活をしていると言う事を常に意識し支援できる様努めています		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には施設での日々の生活の様子を伝え安心して頂ける様連絡は取り合っています。また面会や外出などで協力をいただいています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達が訪ねてくれた方もありましたが、本年度はコロナウイルス感染症拡大のため面会規制があり難しい状況です。又、緩和された時には訪問される様声がけし支援していきたいと思っています	習い事での友人の来訪があったが、新型コロナの影響により、自粛をお願いしている。今は利用者は全員女性で、大半の方が2ヶ月に1回の訪問美容室を利用し馴染みの関係となっている。若干名の方は家族がお連れし入居前からの美容院を利用しており、また、自宅に立ち寄りご主人と飼い犬、猫にも会い、くつろいでいる。今年9月までは面会もホーム玄関先でお願いしていたが、11月からは緩和され地域交流室にて面会をしている。ボランティアの来訪がまだ中止となっている中、併設の小規模多機能型居宅介護事業所の利用者と共に交流室で職員のギターや歌を楽しまれたという。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	入居者様どうし暖かなホールで談話されて いる場面はよく見かけます。ホールではここ やかに午後のひとときを楽しそうに過ごされて いる姿もよくあります。孤立しないように職 員は一人ひとりに声がけをするよう心掛け 努めています		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方には、病院・他施設等面会・お 見舞いに行きその後のご様子をうかがって います。ご家族にはお電話をしてその後 のご様子をお聞きし関係が切れない様心掛け ています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	毎日の関りの中から、またご本人との会話 の中から、今何をしたいのか、何を思ってい るのかをくみ取り職員間で話し合い少しでも 願いがかなえられるよう努力しています	契約時や日々の生活の中で聞いた生活歴を中心 にケアに活かしている。日ごろは一人ひとりの様子を見 て、意向を汲み取るようにし、一人ひとりの利用者の 望む生活を支えている。利用者のつぶやき等が聞こ えた時には申し送りノートで情報として伝達し、職員間 で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	基本情報をもとに、ご本人の家庭での生活 などを、ご家族の来所時に出来るだけ詳しく 情報を得るよう心がけています。また、ご 本人との会話の中からご本人の歴史を聞き 出せるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	認知症の理解を深め、入居者様お一人お 一人の出来る事の違いを見極め、全てが 出来ないと感じた介助は行わない様職員 指導を行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	毎日の申し送り・ケア会議等で身体の状態・ 認知機能低下など話し合い、介護計画を見 直し介助につなげています。担当者会議を 開き、家族の希望に添った介護計画を作成 しています	職員は1名の利用者を担当しており、担当する利用者 の計画の見直しの際にモニタリングを行い、その中心 となって全員で話し合い、計画作成担当者がサービス 計画書を作成している。3ヶ月での見直しを基本として いるが、状態の変化に応じて随時見直しも行って いる。サービス担当者会議には家族、施設長、計画作 成担当者、管理者が参加し、病状によっては看護師も 参加し見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子・身体的状況を記録 し、またご本人の発した言葉も記録に残しご 家族の来所時にお伝えしてご協力を頂き介 助につなげられるよう努めています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生れるニーズ に対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟 な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状を把握しその時々々のニーズに添った対 応を心掛けています。その都度職員間で話 し合いニーズに応えられるよう努めていま す		

ほほ笑みホーム大屋

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本年度はコロナウイルス感染症拡大のため、施設内への入館規制があり、思う様な支援はできてい。また、地域での催事も開催されませんでした。買い物などにもお連れすることが出来ませんでした。規制が解除されたら支援していきたいとおもいます		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の理解と承諾を得た方には、月に2回の訪問診療で診察を受けていられます。また専門医に受診されている方には、生活のご様子をお伝えし適切な治療が受けられるよう支援しています	利用契約時に協力医があることを説明し、希望を聞いている。現在、全利用者が協力医を主治医としており、月2回の往診で受診している。専門医については家族の付き添いにより受診をお願いしている。受診の際には担当職員が情報提供表を作成し家族に渡している。受診後は家族から口頭で結果を聞いている。ホームには看護師があり、スムーズに医療への連携が行われるようになっている。夜間も協力医に連絡が取れるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝の申し送り時・夕方・主治医の往診時には入居者様の生活の様子・身体的な変化などを適切に報告し指示を仰いでいます。また職員との情報共有もしっかりとれるような関係を作っています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、施設での生活の様子・身体的な状態などの情報提供し、入院時適切な治療が受けられるよう連携をはかっています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、終末期を迎えられている入居者様はおられないが、御家族がどのようなお考えがあるのかを話し合う担当者会議を近日中に行う様取り組んでいます	「医療連携体制に関する指針」があるが、今現在、ホームでの看取りの経験はない。利用者が高齢化しつつあり、看取りの希望をしている方もあり、もう一度看取りについて見直しをする予定である。救急救命講習、AEDの講習も複合施設全体で行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルは作成してあります。応急手当・初期対応については、医師・看護師の指導の下に実践できる様努力しています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	河川からは離れている。また2階なので水害被害は想定できませんが、火事・地震に関しては日頃から想定し地域の方々に協力を働き掛けています	年2回、春と秋に避難訓練が行われている。2階のため、第1避難所はベランダとしている。9月に複合施設の駐車場で行われた水消火器による消火訓練に職員が参加している。11月には通報訓練、避難訓練が行われ、利用者も1階まで避難している。防設備点検も定期的に行われており、非常時に備えたコンロ、石油ストーブ等は併設の小規模多機能型居宅介護事業所と共用になっている。	立地的に水害等の災害は想定しにくい場所ではあるが、停電など様々な災害を想定し、ホームとして食料品・介護用品の備蓄等を充実されることが求められる。また、2階からの車いすでの利用者の避難方法、職員間の緊急連絡の訓練など、更に、非常時に備えることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的にはまず、傾聴、人格を否定した対応にならない様注意した言葉かけや対応をしています	チェックシートで自分の対応について確認している。本人が気づかず他の職員の対応で気づいたことは会議で提起し、全員で見直している。利用者への声かけは苗字に「さん」でお呼びしている。毎月開かれる事業所研修で声の掛け方なども課題にし、利用者のプライバシー保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に寄り添い、会話の中からご本人の思いを聴き自己決定出来る様働きかけています。言葉で発することのできない方には、その方の行動からくみ取るよう心掛けています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、ご本人のペースに合わせた対応を心掛けています。お部屋で過ごす方・ホールで過ごされる方、それぞれの希望に添った日常になる様支援しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で衣服を選べる方は、それぞれのおしゃれを楽しんでいただいています。ご自分で選べない方には職員がお聞きしながらおしゃれを楽しめるよう支援しています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りをお手伝いして頂くことは難しいのですが、食事の準備やおやつのお手伝いは出来る範囲で見守りながら行っています。食事中は「おいしいね」と言葉をかけ楽しい場面になる様心掛けています	自分で食事が出来る方が大半で、一部介助の方が若干名となっており、一人ひとりの利用者に合わせて、スムーズに食事が出来るようにしている。食事形態は常食が半数で、刻み食、ミキサー食、トロミ食の方が若干名ずつとなっており、おかゆの方も三分の一となっている。一週間のメニューを大まかに職員全員で決め、4日に1回職員が交代で食材の買い出しを行っている。利用者もお誘いし買い物に出掛けていたが、身体機能の低下により長い時間の外出が難しくなっている。9月の敬老会ではお赤飯で職員とお祝いをしたという。また、ホットプレートで餃子、ニラせんべいなども作っており、白玉のおしるこや草餅なども大変喜ばれているという。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	誤嚥性肺炎が心配な方・飲み込みが難しくなってきたり、義歯の調整が難しい方などには、その都度職員間で話し合いながら、栄養不足・水分不足にならない様支援しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは行っています。ご自分で出来る方には見守り声かけを、ご自分では難しい方には介助でおこなっています		

ほほ笑みホーム大屋

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立されている方には、万が一失敗された時には対応を配慮し、介助の必要な方には排泄パターンをつかみ声がけ誘導し気持ちよく過ごして頂けるよう支援しています	排泄チェックリストを基に定時誘導の様子を見ながらトイレ誘導をし、出来る限りトイレで排泄するように支援している。自立されている方が数名おりその内の若干名の方が布パンツで過ごしている。そのほかの方はリハビリパンツのみ、リハビリパンツとパット使用となっている。介護用品はホームでまとめて購入し、使用した分だけ請求する形を取り、利用者の負担を出来る限り抑えるようにしている。ホームからの毎月のお便りにも価格が下がったことを知らせている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールは医師と相談し、下剤を服用しています。日々の運動・水分摂取などにも注意し便秘にならない様取り組んでいます		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決められています。お一人30分の入浴時間でゆっくりと入浴を楽しまれる様支援しています	入浴について自立されている方は若干名で、一部介助の方が数名、全介助の方が三分の二となっている。週2回を基本とし、一人ひとりゆっくり入浴していただいている。ホーム内には一般浴槽があり、シャワー浴が難しくなった時には1階の小規模多機能型住宅介護事業所に機械浴槽が設置されており利用が可能となっている。菖蒲湯やゆず湯などの季節のお風呂も利用者の心身の状況に合わせて検討を加えつつ実施することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	高齢の為、一日中椅子に座っていることは、下肢の浮腫み、また疲れてしまい、レクリエーション活動に参加できない事もたびたびあるので、午後はたとえわずかな時間でも休んでいただくよう支援しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の指示のもと、処方されたお薬は、薬局でセットされてきます。個々の服薬管理は施設でおこなっています。職員は個々のお薬については理解し服用していただいています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割分担は特には決めてはいたませんが、その日その日の入居者様の体調で、お願いしています。気分転換に散歩で近くを歩かれる方もいられます		

ほほ笑みホーム大屋

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本年度はコロナウイルス感染症拡大のため外出は出来ませんでした。ホームの周りを歩かれる方、またご家族に協力して頂き外出される方がおられました。	新型コロナウイルスの影響を受ける前は外出できたが、今年3月以降はその影響を受け、近くの公園への散歩をし気分転換をしている。また、ベランダで日光浴をしたり外気にふれるよう心掛けている。外出時は車いす利用の方が半数弱となり、大勢での外出が難しくなっている。外出がままならないことから、毎日、音読、読み聞かせ、体操、風船バレー、職員手作りのゲームなどを行い、ストレスにならないよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設としては、現金はお預かりしないことになっております。本年度は出来ませんでした。が、コロナウイルス感染が落ち着いたら買い物にも出かけるよう支援していきます		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの、お手紙やお電話に関しては自由にやり取りが出来る様支援しています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには季節折々の工作が飾られています。レクリエーションを楽しんでいる時の自然な笑顔の写真がはられています。2階の為明るい暖かな陽ざしがはいり穏やかな環境となっています	利用者が集うリビングは床暖となっており、加湿器も用意されホーム内の乾燥には配慮がされている。壁には利用者の日々の活動を写した写真が貼られ、楽しく過ごされていることを窺うことができる。リビングには利用者が共同して作った季節ごとの制作物も飾られている。ホームは複合施設の2階のため陽がサンサンと入り明るく、ゆったりと過ごせるようにテーブル・椅子などが配置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールではご自分の席が決まっています。隣同士会話を楽しまれたり、レクリエーションでは協力しあったり、また一緒に考えたりと、孤立することなく過ごされるようしています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物をお持ちくださっている方もいれば、何も無い方もいます。そんな中でもテレビをお持ちの方はお部屋でゆっくり過ごされています。ご家族にはなじみの物をお持ちいただける様お願いはしています	ホームとしてクローゼットとベットが用意されている。持ち込みは自由で、神棚、テレビなどを持ち込まれている方がいる。居室やリビングで編み物をされる方もいる。また、家族の写真を飾る方など、利用者一人ひとりが居心地よく過ごせるよう工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっているのですが、廊下を20分程歩かれている方もおられるので転倒防止のため、廊下には物を置かないことを徹底しています。		